

政策目標5 豊かで魅力ある地域づくり/政策9 ひとの力を活かした地域活力の創造・再生

政策分野38 大学等との連携

目指す姿		
多くの人が会津大学をはじめとする高等教育機関で学び、将来にわたって地域で活躍するまち		
施策		
施策番号	名称 施策の内容	関連するSDGs17のゴール
施策1	大学等を活かした人口の流入・定着の促進	  
	地域内高等教育機関の魅力発信・誘致と、高等教育機関等と有効に連携を図ることのできる研究機関等の誘致を図り、知的資源の質の向上と活用を図ることで、人口流入を促進するとともに、卒業後の地域内定着を促進します。	
施策2	大学等と地域の連携促進	  
	地域の重要な知的資源である会津大学をはじめとする高等教育機関と企業、行政などとの連携を促進し、地域課題の解決や地域の活性化、アナリティクス人材等の人材育成などへつなげます。	

1 政策分野の進捗状況

重要業績評価指標の達成状況						
指標名					単位	説明又は計算式
1	卒業後の会津地域内就職者の割合 (会津大学)				%	会津地域内就職者÷就職者 ※「就職者」には家業従事者・起業者を含む
	年度	R5	R6	R7	R8	検証
	目標	27	30	35	40	実績には年度でばらつきはあるが、コンピュータ理工学を専攻した会津大学生は全国から需要が高い人材であり、給与や待遇、キャリア形成の観点から地域外の企業へ就職すると考えられるため、目標の達成には至っていない。
	実績	4.6	4.8	-	-	
	達成率	17.0%	16.0%	-	-	
2	卒業後の会津地域内就職者の割合 (会津大学短期大学部)				%	会津地域内就職者÷就職者 ※「就職者」には家業従事者・起業者を含む
	年度	R5	R6	R7	R8	検証
	目標	42	44	47	50	年度でばらつきはあるが、一定以上の水準で推移している。
	実績	36.7	28.2	-	-	
	達成率	87.4%	64.1%	-	-	
3	卒業後の会津地域内就職者の割合 (専門学校)				%	会津地域内就職者÷就職者 ※「就職者」には家業従事者・起業者を含む
	年度	R5	R6	R7	R8	検証
	目標	87	88	89	90	年度でばらつきはあるが、一定以上の水準で推移している。
	実績	75.7	73.0	-	-	
	達成率	87.0%	82.9%	-	-	

2 施策の評価

施策1	大学等を活かした人口の流入・定着の促進
主な取組状況と成果	・全国の高校生を対象とした「コンピュータサイエンスサマーキャンプ」の取組を支援し、コンピュータの可能性や楽しさを体験、参加者同士のふれあいの場の提供などにより、会津大学並びに会津地域の魅力を継続して発信している。（平成10年度～）
課題認識と今後の方針・改善点	・少子化が進行する中で、会津大学において学生の確保を図るためには、中高生のコンピュータへの関心を高めること、及び会津大学の教育内容や立地の魅力を知ってもらうことが重要である。そうした意味において、全国から毎年60名近い高校生が参加する「コンピュータサイエンスサマーキャンプ」は、非常に有効な取組みとなっており、今後も引き続き開催を支援していく。
施策2	大学等と地域の連携促進
主な取組状況と成果	・地域の「知の拠点」である会津大学に対し、本市の活性化に向けて新たな産業の創出を促進させるような環境づくりを行うことを目的に奨学寄附を行っている（平成22年度～）。 ・奨学寄附金は、技術革新に挑戦する精神と技術力を持つ創業意識の高い人材の育成を目的とした「会津IT日新館」事業や、先端技術の実証、人材育成、新規産業創出支援などを目的として平成27年10月に供用開始された先端ICTラボLiCTiAの取組みなどに活用されている。 ・令和元年度から寄附額を1,500万円に増額。（増額分はスマートシティAiCTと会津大生の交流連携等に活用）
課題認識と今後の方針・改善点	・会津大学において、本市の奨学寄附金を財源に、新規産業創出に繋がるような人材育成や、技術開発促進に資する研究・支援活動等が行われていることは重要であるが、研究成果の実用化・商品化やベンチャー企業への増加等についてはすぐに成果が現れるものではないため、息の長い取り組みが必要である。 ・令和元年度から実施されているスマートシティAiCTとの交流連携についても継続して支援していく。 ・会津大学の研究成果が企業との共同研究に結び付くよう、PR等について大学を支援していく。

3 関連する政策分野と事務事業

政策分野	事務事業名	担当部・課名
12-2	産学連携推進事業	観光商工部・商工課
13-2	I C T関連産業集積	観光商工部・企業立地課
13-3	起業支援	観光商工部・商工課

4 第7次総合計画の期中総括

○主な成果 ・会津コンピュータサイエンススクール実行委員会負担金による毎年夏に開催される高校生を対象とした「コンピュータサイエンスサマーキャンプ」の支援。 ・新規産業創出に繋がるような人材育成や、技術開発促進に資する研究・支援活動等への奨学寄附 ○課題 ・負担金の拠出や寄附金によるイベントや研究への支援は、新規産業創出につながるような人材育成はもとより、研究成果の実用化・商品化などの目に見える成果を感じるまで、多くの財政負担が伴うとともに、時間がかかることが多い。

5 最終評価

政策分野38「大学等との連携」の推進にあたっては、新規産業創出につながるような人材育成や、技術開発促進に資する研究・活動への支援を継続していく。

6 事務事業一覧

番号	ロジック モデル	主要 事業	人口減 少対策 ※	SDGs ターゲ ット	事務事業名	次年度 方針	担当部・課
施策1 大学等を活かした人口の流入・定着の推進							
1			基本目標1	4.4	会津コンピュータサイエンススクール実行委員会負担金	継続	企画政策部・シティプロモーション課
施策2 大学等と地域の連携促進							
1			基本目標2	4.4	会津大学地域教育研究等支援事業	継続	企画政策部・シティプロモーション課

※人口減少対策に資する事業として、「第3期 会津若松市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の4つの基本目標に位置付けた取組を記載しています。

基本目標1 既存産業・資源を活用した魅力的なしごとづくり

基本目標2 地域の個性を活かした新たな人の流れの創出

基本目標3 生活の利便性を実感できる安全・安心なまちづくり

基本目標4 結婚・出産・子育て支援と教育環境の整備

施策1 大学等を活かした人口の流入・定着の促進				
1	事業名	会津大学地域教育研究等支援事業		法定／自主
	担当部・課	企画政策部・シティプロモーション課		次年度方針
	概要 (目的・内容)	全国の中・高校生が、会津大学においてコンピュータサイエンスの魅力を学ぶ「コンピュータサイエンスサマーキャンプ」の取組を支援し、コンピュータの可能性や楽しさを学ぶことで創造性を育み、参加者同士の交流の場の提供等で会津大学や会津地域の魅力を発信する。	財務内容 単位(千円)	令和7年度 (予算)
			事業費	700
			所要一般財源	700
			概算人件費	39
	取組状況と 成果	平成10年度から毎年開催。 平成18年度地域づくり総務大臣表彰を受賞。 令和2、3年度は新型コロナウイルスの感染防止のため中止。 令和7年度で28回目の開催。		
	課題認識と 今後の方針・改善点	少子化が進行する中で、会津大学において学生の確保を図るためには、高生のコンピュータへの関心を高めること、及び会津大学の教育内容や立地の魅力を知っていただくことが重要であり、「コンピュータサイエンスサマーキャンプ」を通して、コンピュータサイエンスの楽しさを学び、交流を深めることで、会津大学への進学増加にもつながることが期待できる。本取り組みは会津地域の魅力を知る機会にもなっており、今後も引き続き開催を支援していく。		

施策2 大学等と地域の連携促進					
1	事業名	会津大学地域教育研究等支援事業		法定／自主	自主
	担当部・課	企画政策部・シティプロモーション課		次年度方針	継続
	概要 (目的・内容)	地域の「知の拠点」である会津大学に対して奨学寄附金の寄付を行うことにより、同大学における本市地域の特性やニーズを踏まえた新たな産業創出の促進に向けた人材育成や研究活動、地域との連携交流活動等の促進を図る。	財務内容 単位(千円)	令和7年度 (予算)	令和8年度 (見込み)
			事業費	15,000	15,000
			所要一般財源	15,000	15,000
			概算人件費	39	39
	取組状況と 成果	平成22年度～ 会津大学地域教育研究等支援事業として会津大学に1,000万円を奨学寄附金として支出（会津IT日新館、先端ICTラボ事業等に充当） 令和元年度から寄付を1,500万円に増額。 （増額分はスマートシティAiCTと会津大生の交流連携促進等に活用）			
	課題認識と 今後の方針 ・改善点	・本市の奨学寄附金を財源とし、新たな産業の創出に繋がる人材育成及び技術開発促進に資する研究等が行われている。研究の実用化・商品化、ベンチャー企業の増加等については、すぐに成果が現れるものではないため、息の長い取り組みとして継続していく。 ・スマートシティAiCTと会津大学生の交流連携についても継続して支援していく。			